

御坊山会館で開いた「お渡し会」に83世帯約100人が参加



6日午前10時から羽咋市御坊山会館で支援物資の「お渡し会」が開かれました。液状化で家の基礎、道路に亀裂・損害を被った地域です。町内会にいる医療生協「友の会」役員が発起人となり、センタースタッフが協力を取り組みました。町内会長、若い家族連れ、年配者、在留外国人など、83世帯約100人が参加。用意されたお米、ペットボトル、ジュース、玉ねぎ、ジャガイモ、お菓子などの支援物資を届けました。受付を済ませると、センターのチラシを手に、「お困りな



受付を済ませて「お渡し会」の順番待ちをしている町内会員(上)。支援物資を持ち帰る人たち(下)

と」などを記入するアンケートにも協力してもらいました。団地やマンションを含む御坊山町内会の約200世帯に案内チラシを配ったところ、当日の開催時刻前から大勢の方たちが姿を見せ、互いの近況を語り合いながら、何人も順番待ちをしていました。羽咋市内で働く在留外国人の若い女性の姿も見受けられ、帰りにお礼をいう人、支援物資を受け取りながら、カンパを寄せる女性も複数おられました。集会所の筋向いの方からは、「震災で隣家のブロック塀が倒れ、何とかしてほしい」などの相談も持ち掛けられました。

5・8 珠洲市の蛸島町、宝立町仮設訪問記

8日、和歌山の楠本さん(衆院2区候補)らの4人は珠洲市の蛸島仮設へ、板橋区議団、淡路市議、千葉、長野、福岡のメンバーは宝立小中学校グラウンドの仮設へ合わせて50軒に物資を届け、被災者の要望を伺いました。今回の支援物資は、コメ、水、野菜ジュース、ティッシュ、玉ねぎ、果物などです。各仮設にお住まいの方からは、「津波で引っかけた漁網を早く撤去してほしい」「2年後の新築がむつかしい」「仮設後は賃貸の市営住宅を作ってほしい」など様々な不安と不満が語られました。また、参加したボランティアからは「支援物資は大変喜ばれた。イタリア、台湾のように国としての災害対策をもっとまじめにやってもらいたい」などの感想が寄せられました。



珠洲・宝立小中グラウンド仮設で対話する酒井、長浜の両氏

高速道路の無料手続きの簡素化

金沢 inter チェンジで対応する高速料金の無料化の確認は輪島市と能登町の役場に加え、金沢の県庁11階の1107会議室に入るJVOADで押印可能になりました。